

日本キリスト教団 仙台青葉荘教会

週 報 (簡素版)

〒980-0012

仙台市青葉区錦町 1 丁目 13-48 Tel 022-222-3855

2020年5月17日

復活節第6主日礼拝順序

説教：潮 義男牧師

前奏・黙禱

聖 歌 514

主の祈り

聖 書

ヨハネによる福音書16章16節～24節

説 教 「福音の原点」

祈 り 潮牧師

讃 美 歌 510

祈 禱(ネット配信を聴取されている方、及びこの週報で礼拝をされる方はお祈りください)

頌 栄 543

祝 禱

- ・役員会を5月9日開催、先の役員会において5月10日まで礼拝を休止としていましたが、6月7日まで礼拝休止の延長を決めました。ネット礼拝、週報等により家庭および個人で礼拝をお守りください。
- ・教会総会議案書・報告書を役員会後に梱包し発送しました。すでにお手元に届いていることと思います。お読みいただき、「議決権行使書」をFAXまたは郵送にて教会までお送りください。
- ・新型コロナ・ウィルスの感染が収束し、喜びをもって礼拝が再開できるように祈ります。

説教要約

1. 十字架の死 16章16節を読みましょう。

またしばらくすると、わたしを見るようになる。その言葉は弟子たちにとっては理解不能でした。禅問答のようですね。しかし、このことばは、以前にも何度も語られていました。しつこいくらいという語弊があるでしょうか？ 福音書は、「ここが大事ですよ。だから、何度でもいうのですよ」 そう言っているのです。

わかりやすく説明しますと、「このあと、ユダヤの人たちファリサイ派の人たち、律法学者、祭司・長老たちがイエス様を捕まえに来て、裁判にかけ、十字架につけて殺そうとしている。事実、そのようになるだろう。わたしは十字架の死を死ぬ。君たちとはお別れだ。いなくなってしまう。きみたちはわたしを見ることのないだろう。しかし、それで終わりではない。以前にも言うておいたように、わたしは甦る。復活するのだ。そうすれば、またきみたちと会えるのだ」 イエス様はそのように言われているのです。

弟子たちにとって、イエス様は何も罪を犯したわけではない。悪いことはしていない。むしろ、多くの病人をいやし、たくさんのお奇蹟を行ってきた。誰も語ることがなかった神の言葉を語られた。それは、神から遣わされた方であれば、語ることがない権威ある教えであり、いのちのことばなのだ。そのイエス様を捕縛し、裁判にかけ、死刑にすることなど誰もできない。そう確信していたのです。無実なのです。

しかし、イエス様はユダヤの支配者たちの悪と罪を熟知しておられました。嫉妬深く、組織を守るために律法の教えを覆そうとするイエス様を許すわけにはいかないのです。

弟子たちは、そのことを理解できなかったのです。十字架は弟子たちにとって理解不能の出来事です。しかし、イエス様は言われます。「死で終わりでない。死から始まる。復活。死ではなく、いのち。それがわたしである」と。今は理解不能であっても、いのちのことばを理解させてくださるのは、聖霊です。助け主、弁護者、慰め主の聖霊がイエス様の死によって、復活のキリストの霊として来られるのです。死んでいなくなり、見えなくなっても、復活のキリストとして見えるようになる。ここに福音の原点 始まりがあります。

2. 悲しみが喜びに 20節以下

8節にも悲しむことを言われています。まさに母が突然なくなった幼児のように泣いて悲嘆に暮れる姿です。絶望的な悲しみ、嘆きです。しかし、弟子たちは復活のイエス様を見て、喜びに変わるのです。不安と苦しみの中で泣きわめいていた幼児にのちにお母さんが現れた。幼児は大喜びです。「おかあちゃん」と叫び、母のふところに飛び込みます。

3. イエスの名によって 栄光の主 23節以下

キリスト教のスタート、福音の原点がここに 있습니다。それは、イエス様のお名前によって願うということです。ここに新しい時代の到来があります。歴史の転換点です。